



## I 目指す学校像

肢体不自由のある子供たちの特性や発達課題に応じた教育を行い、地域や社会の一員として自立する力を育成する学校

- 1 児童・生徒が、意欲的に学びたくなる学校
- 2 保護者が安心して、我が子を託せる学校
- 3 地域とともに歩み、地域の人々に信頼される学校
- 4 教職員一人一人が、法令等を遵守し相互の連携を深め組織的な学校運営を推進する学校

## II 本校の教育目標

日本国憲法、教育基本法及び学校教育法の理念に基づき、特別支援学校としての地域における特別支援教育のセンター的な機能の発揮を図るとともに、特別な教育のニーズのある児童・生徒一人一人が、生涯を通して豊かな人生を送ることを願い、以下の教育目標を定める。

- (1) いのちを大切にし、健康な心と体をつくる。
- (2) 感性や思いを豊かにし、コミュニケーションの力を身に付ける。
- (3) 自分を大切にしながら、社会の一員として互いに認め合い、ともに生きる力を付ける。
- (4) 学ぶ喜びを味わい、主体的に学び、考え、行動する力を身に付ける。

## III 中期的目標と方策

専門性の高い教育、連続性のある教育が提供できるよう、教職員一人一人がその職責を果たすとともに、校内OJTを推進し学校教育力を高めていく。次のあるべき姿をめざし以下に目標と方策を定める。

### 目 標

- ① **人権を尊重し、個別のニーズに応じた教育活動の充実**  
人権感覚を常に意識し、外部専門員ほか外部人材等との協働推進
- ② **教職員のスキルアップを図り、協働・連携による健康・安全面の教育活動の推進**  
校内OJT推進体制の充実、外部専門員ほか外部人材等との協働による教育活動の推進
- ③ **地域支援・連携、組織体制の強化**  
地域に開かれた特別支援教育を推進

### 方 策

上記目標を実現するために以下の方策を実施する。

- ① 「**人権を尊重し個々のニーズに応じた教育活動の充実**」
  - ・生活年齢や個々の違い等に応じ実態理解を深め適切に対応する指導の徹底
  - ・外部専門員等を活用し児童・生徒の能力を最大限引き出すための授業力向上
  - ・児童・生徒一人一人のニーズに対応する系統的なキャリア教育の充実と指導力向上
- ② 「**教職員の協働・連携による健康・安全な教育活動の推進**」
  - ・地域関連諸機関と連携した実効的な防災安全指導の工夫と推進
  - ・多職種教職員連携による安全な医療的ケアや健康管理の実施
  - ・スクールバス等による安全な登下校の実施
- ③ 「**地域支援・連携、組織体制の強化**」
  - ・保護者や地域関連諸機関との緊密な連携によるインクルーシブ教育の充実
  - ・肢体不自由教育の専門性の高いミドルリーダー育成を図る校内研修やOJT体制の推進
  - ・法令順守に基づく個人情報等の適正な管理をする組織の強化

## 令和8年度の重点目標と方策

## 1 学習指導要領に基づく授業力の向上

(1) 人権を尊重した適切な指導の徹底

(2) 人材を活かした教育活動の充実

7年度評価：

教職員に人権感覚向上アンケート（6月・12月実施）を実施し、言語環境等の配慮点を確認。また、服務事故防止研修（4月、7月、12月、夏季休業日中にはオンデマンド研修）等を通し、人権に配慮した指導を徹底。児童・生徒を迎える新学期の4月、9月、1月には、人権感覚（教職員のチェックポイント）研修を実施し、子供との関わりや教室環境等を確認徹底して指導を開始。

デジタル教科書活用指導の充実について、他校の実践参観を通し、活用について充実を図った。11月には東京都立肢体不自由教育特別支援学校に対し、本校のデジタル教科書の活用事例を発表。

他校との共同遠隔指導の充実では、2学期中に中学部2年で4回（社会）、中学部3年で4回（国語2回、数学2回）実施。東京都教育委員会主催の連絡会が2月に実施。

スクールカウンセラーによる講演会を、PTA対象に1月PTA運営委員会後に開催。

項目		今年度の取組目標、方策 等	対象、期間	主たる責任者
学習指導	1	人権を尊重した適切な指導の徹底、児童・生徒へ適切な言語環境を提供する指導の徹底：保護者苦情ゼロ	全教職員 通年	管理職 教務主任、 各学部主任 管轄
	2	① 重点目標：外部専門員や教育庁事業を活用した個別最適な学びの充実、ICT活用教育推進、全教職員のICT活用能力向上：教職員肯定的評価80%以上 ② 教育庁指導部特支課事業：デジタル教科書活用指導の充実 他校との共同遠隔指導の充実  研究会等ポスター発表等による共有	全教員、通年	教務主任、 研究部主任、 情報主任、 各学部主任 管轄

## 2 児童・生徒一人一人のニーズに応じたキャリア教育の充実

(1) 全体計画に基づいた系統性のあるキャリア教育の推進

(2) 保護者及び関係機関と学校の連携を強化・充実し、児童・生徒の進路指導を充実

7年度評価：

キャリア教育の手引きについて、進路指導担当教員向け指導資料作成部会が作成した「困ったときに役立つ特別支援学校進路指導担当者向けQ&A集」や、東京都肢体不自由特別支援学校進路指導連絡協議会が作成した「進路の手引き 豊かな生活の実現にむけて」を参考に、今年度のキャリア教育の取組内容を踏まえ、10月に改訂し、校内教員に周知。

進路便りは、Q&A集、進路の手引きや各進路先からの便り情報を参考に、毎月作成し、教員や保護者へ情報提供を行った。

5月に港区、品川区、大田区による進路説明会を実施した。2月に卒業生・卒業生保護者による進路講演会を実施。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間	主たる責任者
キャリア教育	1	キャリア教育の手引きや進路便りを活用した教員、保護者指導の充実	1、2学期中 肯定的評価 80%以上	進路指導主任 各学部主任
	2	卒業生・卒業生保護者、区行政等と連携した進路説明会や進路懇談会等の実施	1、2学期中 肯定的評価 80%以上	進路指導主任 高進路専任 各学部主任

## 3 健康・安全な教育活動の推進

(1) 教育活動全般を通じた防災教育や地震災害に備えた実践的な危機回避教育を推進

(2) 教員や学校介護職員と医師、看護師等が連携し、健康観察、医療的ケアを安全に実施

7年度評価：

避難年間計画に従って、避難訓練を実施。次年度、12月には六郷工科高等学校との合同避難訓練を企画・立案。

夏季休業中に、教職員を対象とした総合防災訓練を実施し、校内の係分担の確認と、備蓄品および電気関係物品の動作確認等を行った。また、校内の災害対策物品について周知を図るため、職員室前に展示。

夏季休業日中に教職員対象の総合防災訓練を実施し、校内の係分担を確認した。また、校内における災害対策物品を確認できるように職員室前に展示・周知。

スクールバスの運行は、都教育委員会と連携し、近隣交通の渋滞緩和を目的とし、段階的なスクールバスの出庫を実施。また、医療的ケア専用通学車両は、7月に1台、9月に1台の計2台増車し、安全に運行。令和8年度の運行計画を作成し、全コース(11台)の契約を完了。令和8年度から登校時に混雑する駐車スペースを確保するため都立六郷工科高校敷地内に4台駐予定。

医療的ケア児の保護者待機早期解消に向け、令和8年度入学予定の医療的ケアのある児童の観察に就学前施設訪問を行った。入学前の3月に医療的ケアのある入学生に対し療育診を実施。

小学部では、地域資源を知る活動の一環として雑色交番、東六郷小学校、六郷図書館などへ校外学習を実施。また、中学部においては、授業内で地域資源を活用した取り組みとして六郷図書館への校外学習や水門通り商店街への買い物学習、京急線の乗車を体験する校外学習を実施。次年度は、小学部は高学年の各学習グループ、中学部は全学習グループで実施を計画。

消防写生会入賞1名、第44回肢体不自由児・者の美術展 優秀賞1名、総合文化祭 オセロ大会 第4位、第34回総合文化祭 書道作品展 ポスター掲載作品1名、第32回 全国特別支援学校文化祭 写真部門 りそなグループ賞1名受賞。実用技能英語検定を2回、漢字検定を3回実施し、多くの児童・生徒が受験。実用英語技能検定1名合格、日本漢字能力検定2名合格。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
安全指導	1	① 防災教育推進委員会、区防災課や地域と連携した実効的避難訓練の充実 ② 備蓄品等を活用した教職員訓練の実施2回以上	実施の上、通年、肯定的評価80%	生活指導主任 防災主任 管理職
	2	① スクールバス, 医療的ケア専用車両、登下校時の安全な誘導 ② 学区3区バスコース・児童生徒居住表示を活用した登下校発災想定訓練の実施	実施の上、通年、肯定的評価80%	生活指導主任 バス部主任 管理職
健康指導	1	保護者と連携し体調把握や身体状態等、健康の管理の充実	通年、保護者肯定的評価80%	全教職員
	2	医療的ケア実施指針及び各種ガイドラインに基づく安全で適切な実施。新規医療的ケアの安全な実施。	通年、保護者肯定的評価80%	所掌主幹教諭 各学部主任
	3	特別支援学校における歯・口の健康づくり推進事業 ：歯・口の健康づくり推進校 (令和8・9年度)	全教員 保護者 通年	所掌主幹教諭 各学部主任
特別活動	1	児童・生徒の実態に応じた教科横断的な目標を活かした各種行事の安全な実施と確実な評価	実施後評価による確実な改善	教務主任 各学部主任
	2	児童・生徒の意欲向上に向けた各種展示会コンテスト、コンクール、検定等への出展及び受検等機会の活用	年間20件以上	教務主任 各学部主任

#### 4 専門性のある人材を活用した特色ある教育の充実

(1) 外部専門員の活用による自立活動、個別学習の充実

(2) オリンピックパラリンピック教育の成果として学校レガシーを活かしたスポーツ志向、芸術文化に親しむ指導の充実

7年度評価：

外部専門員からの指導機会となるケース会は、通年実施し、1月までに34回実施し、児童・生徒の課題を共有し指導の充実を図った。外部専門員に6区分27項目についてのアンケートを実施し、児童・生徒の課題と照らし合わせることができる外部専門員の専門性の一覧表を作成。表の活用により、教員の外部専門員の活用を活性化。

スポーツに関する取組として、小学部5年生が国立陸上競技場へ世界陸上大会体験に参加し、高等部はデフリンピックの観戦に大田区総合体育館へ校外学習を実施。2月に、全校でデフスポーツ体験（デフリンピックとデフバスケの魅力を知ろう）を実施。12月に文化庁事業の劇団『風』による『星の王子さま』を実施。事前ワークショップを実施し高等部3年生は劇中に歌で参加。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
特色ある教育活動	1	外部専門員等による自立活動指導の充実を図るための円滑な調整と情報共有の工夫	通年	所掌主幹教諭 各学部主任
	2	オリンピック・パラリンピック学校レガシー： スポーツに親しむほか日本の伝統文化やアートプロジェクト、総合文化祭、文化庁事業等芸術に関する教育の推進	スポーツ、 芸術文化 年2回以上 招聘	教務主任 各学部主任

## 5 特別支援教育のセンター的機能の充実と地域と連携・協働した取組の推進

(1) 地域の教育委員会、地域の小・中学校や高等学校と連携し、教育相談や交流活動を実施し共生社会の実現

(2) 学校ホームページを活用し、学校教育活動を適時・迅速に発信

7年度評価：

東六郷小学校による学校見学を10月に実施し、1月に本校小学部4・5Gが東六郷小学校へ出向き、学習の成果発表会の見学を含め交流。南六郷中学校は、作品交流の授受を通して両校の生徒会が交流。12月本校小学部高学年と仲六郷小学校5年生との交流を本校体育館で実施。

今年度初となる取組として、地域企業と協働して障害者スポーツ等を活用した地元町会との連携推進を計画。ポッチャ大会が開催されたが、日程の関係上本校は不参加。

就学前機関や関係機関を対象とした学校見学会を5、6月に2回実施。放課後等デイサービスを対象とした連絡協議会を紙面で開催し、Formsによる意見集約を実施。今年度は12月に1回目を実施し2月に2回目を実施。

特別支援学校と高等学校等の協働的な取組として、令和7年度は都立六郷工科高等学校の教員による施設及び避難訓練見学、本校生徒は制作したねぶたへの装飾作業、ブラインドサッカーの見学等の交流をした。また、六郷ねぶた祭りへ本校児童・生徒の参加、放課後子供教室（わくわくじょうなん）クリスマス会への六郷工科高等学校軽音楽部の参加等の交流を実施。また、今後の直接交流を視野に、境界にある絆の門の拡張工事を10月に実施。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
地域交流等	1	地域小学校へ出前授業（障害理解、多様性の尊重）推進（大田区立小学校を予定） 障害者スポーツ等を活用した地域との連携推進	出前授業、地域交流 各1回以上	所掌主幹教諭 各学部主任 コーディネーター
	2	就学前機関や放課後等デイサービス、関連機関との確実な情報共有による円滑な就学と安全な学校生活の強化	対面連絡会実施 授業参観等実施	所掌主幹教諭、 各学部主任 コーディネーター
	3	インクルーシブな教育環境の整備事業： 特別支援学校と高等学校等の協働的な取組	都立六郷工科高校と実施	所掌主幹教諭 高等部主任

## 6 学校経営と組織体制の強化

- (1) 法令等規則を遵守し、個人情報の適正で組織的な管理を徹底  
 (2) 組織として業務の効率化を図るとともに、安全で健康的な働きやすい職場環境を整備

7年度評価：

サービス事故防止研修を、4月と7月、12月に計3回実施。

5、6月に児童の転倒事故があり、児童に大きな怪我はなかったが、事故防止週間を臨時で設定し、7月以降を事故防止月間として、再発防止の取組を実施。また、8月には、教職員全員を対象に事故防止研修を実施し、学年で児童・生徒の指導中に起こりうる事故のリスクを情報共有し、2学期以降の安全な指導に向けた研修を実施。新学期を迎える4月、9月、1月には、人権感覚（教職員のチェックポイント）研修を通じたチェックポイントの確認徹底。

夏季及び冬季休業日中の校内研修を実施しない日に、自宅勤務（テレワーク）実施日を設け、希望者が自宅で勤務、通勤の軽減や育児・介護と仕事の両立を図った。30名95件の申請実施。

年間計画に従い新転任研修を12回実施。また月一回の研究協議会を分科会に分かれて実施し、2月6日に校内研修会にて各分科会での研究成果を共有。

夏季休業中にICT、進路、摂食指導、自立活動、児童・生徒の健康状態や医療的ケアなど、計16回の研修を実施。

保護者コミュニケーションシステムの代用として、マチコミメール、Microsoft Teams及びFormsを活用し、日々の保護者の連携の充実を図った。集中豪雨の際にもマチコミメールは機能し、大きな混乱もなく下校時間を遅らせて対応することができた。

トイレ新設工事は、連絡会を毎週実施し、安全に配慮しながら計画に従って工事し3月に完了。

項目		今年度の取組目標、方策、数値目標	対象、期間等	主たる責任者
学校運営・組織体制	1	① サービス事故ゼロ、児童・生徒重大事故ゼロ ② ライフ・ワークバランスの推進	① 事故防止研修年間5回 ② 通年、教職員肯定的評価80%	教育管理職
	2	若手教職員、ミドルリーダーの育成研修や教職員研修の充実（メンター、チューター、指導教員、学年主任分掌主担当等）	通年	主幹教諭主管轄 教育管理職
	3	保護者コミュニケーションシステム等の円滑な活用	通年	主幹教諭主管轄 教育管理職
	4	令和9年度エレベーター工事に対応した課題検討と準備	通年	教育管理職及び 主幹教諭管轄